

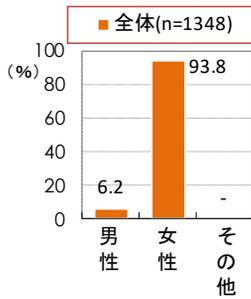
第4章 保育士に対するアンケート調査

1. 回答者の属性

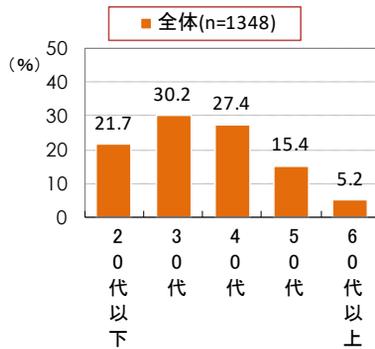
(1) 回答者の性年代等

回答者の9割以上は女性であった。年代は20代～40代がそれぞれ2～3割程度、50代～60代以上が合わせて2割程度となっている。保育士経験年数は「5～10年未満」「10～15年未満」「20年以上」がそれぞれ2割程度となっている。

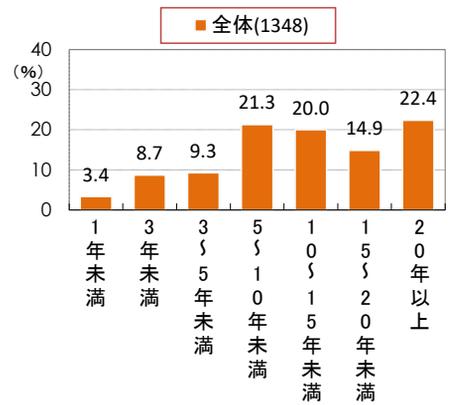
■性別（単一回答）



■年代（単一回答）

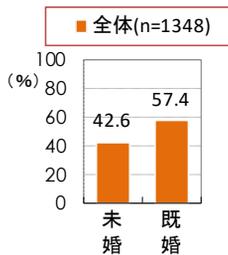


■保育士経験年数（単一回答）

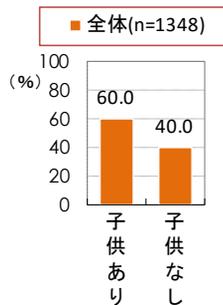


既婚者の割合は6割弱、子供ありが6割を占めている。末子年齢は0～2歳、3～6歳、小学生が2割ずつ、高校生以上が3割となっており、幅広い年齢層の子供のいる母親が保育士を勤めている。

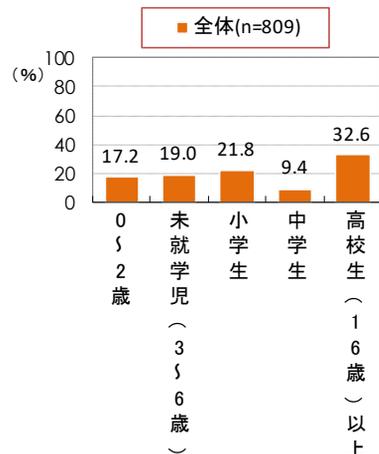
■未既婚（単一回答）



■子供有無（単一回答）



■末子年齢【子供ありのみ】（単一回答）

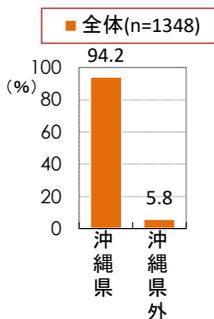


(2) 出身県および来県理由

回答者の出身県について尋ねたところ、大半は沖縄県出身で、県外出身者は全体の6%であった。

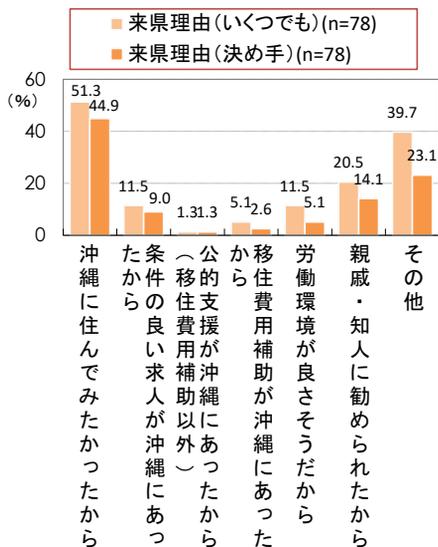
沖縄県外出身者の来県理由としては「沖縄に住んでみたかったから」が最も多く半数を占め、決め手としても同項目が45%と最も多くを占める。来県前の職業は「沖縄県に来る前から保育士として働いていた」が半数以上を占める。

■出身県（単一回答）



■来県理由（複数回答&単一回答）

※沖縄県外出身者のみ聴取



■来県前の職業（単一回答）

※沖縄県外出身者のみ聴取



来県理由その他回答：

結婚を機に移住したため、パートナーの転職のため、家庭の都合のため等

2. 勤務先の施設について

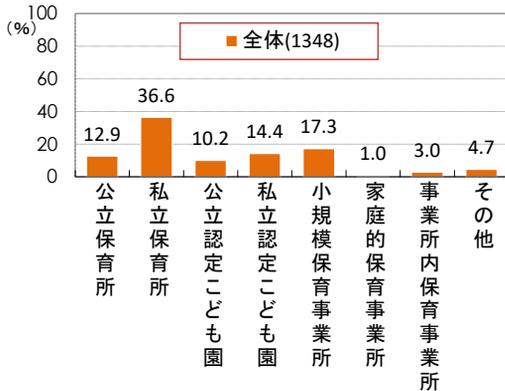
勤務先の施設の所在地は「那覇市」が20%と最も多くを占め、次に「沖縄市」が11%、「糸満市」
「浦添市」が7%となっている。

■勤務施設所在地（単一回答）

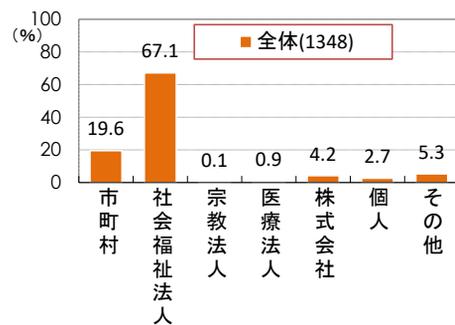


勤務先の施設の種別は「私立保育所」が37%で最も多く、「小規模保育事業所」「私立認定こども園」と続く。運営主体は「社会福祉法人」が6割以上を占め、続いて「市町村」が2割程度が多い。

■施設種別（単一回答）

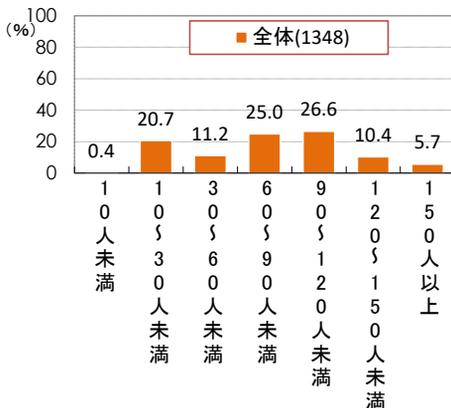


■運営主体（単一回答）

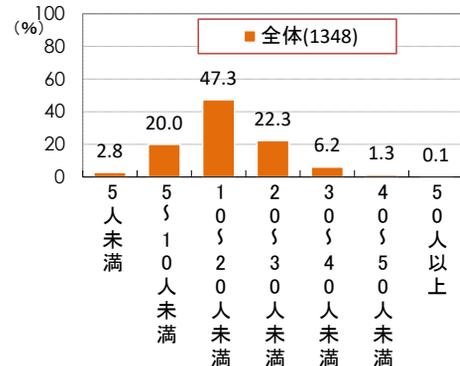


勤務先の施設の規模に関して、入所児童数は90～120人未満が27%で最も多く、10～30人未満、60～90人未満もそれぞれ2割以上を占めている。保育士数は10～20人未満が半数近くを占めている。

■入所児童数（単一回答）



■保育士数（単一回答）

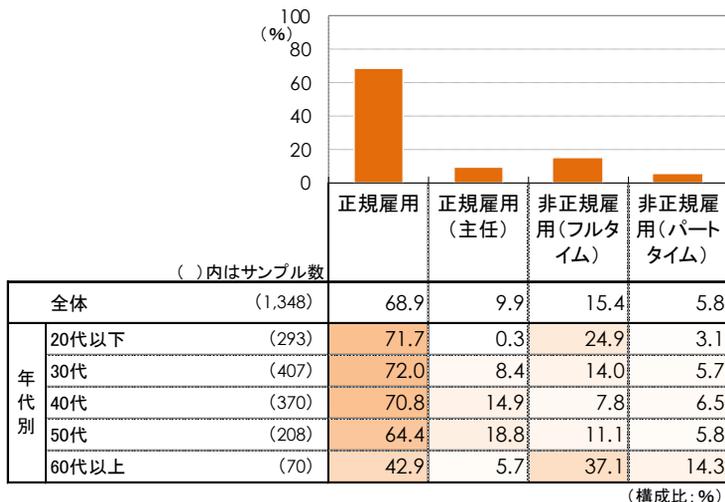


3. 保育士の勤務実態

(1) 雇用形態

回答者の7割弱が「正規雇用」で、各年代ともに割合が最も高い。20代以下や60代以上は「非正規雇用（フルタイム）」が比較的多く、40代・50代は「正規雇用（主任）」が多い。

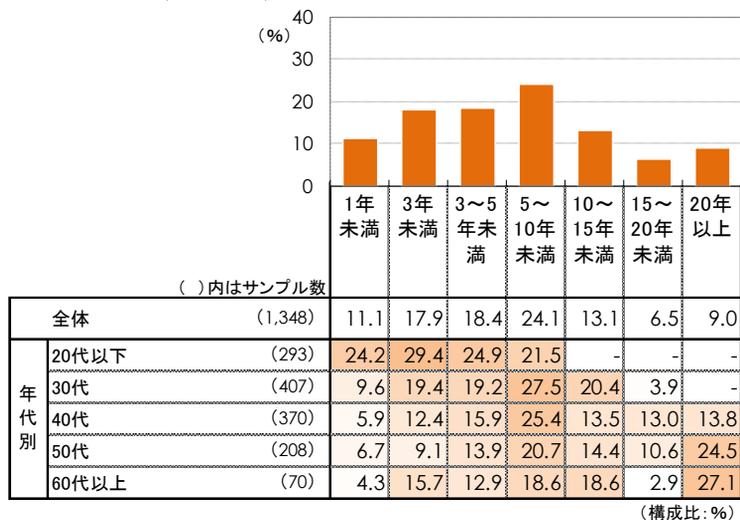
■雇用形態（単一回答）



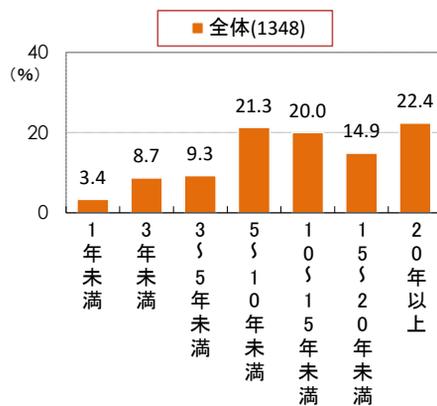
(2) 勤続年数

回答者の勤務している施設における勤続年数は5～10年未満が24%で最も多い。また、1年未満～3年未満を合わせると3割を占める。保育士の経験年数は5年以上の人が8割を占めるのに対し、勤続年数で5年以上は5割であり、転職やブランク後の就職などで勤続年数が短くなっている傾向がうかがえる。

■勤続年数（単一回答）



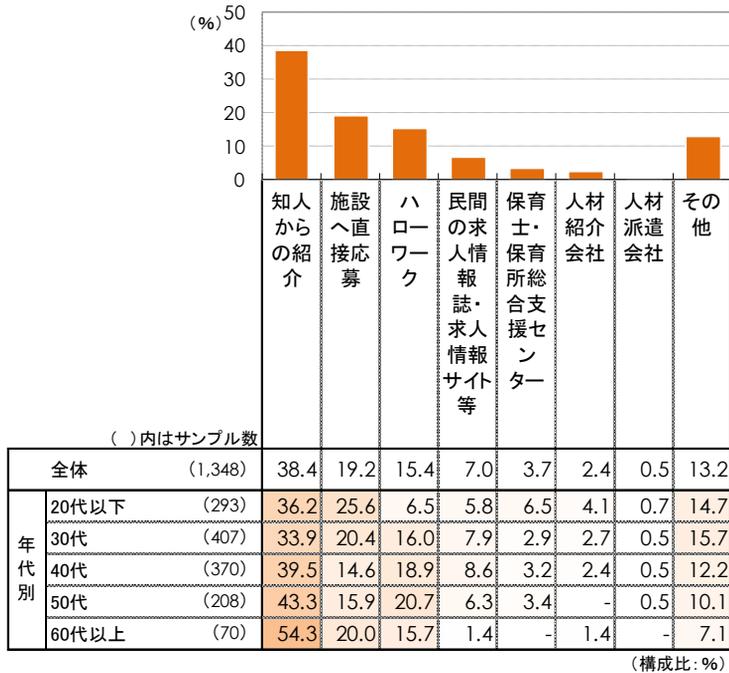
■保育士経験年数（単一回答）※再掲



(3) 就職時の情報源・サービス

現在勤めている施設へ就職する際に利用した情報源は、「知人からの紹介」が38%で最も多い。理由としては『働いている人の情報が1番信頼できる』などが挙げられた。次いで「施設へ直接応募」、「ハローワーク」が多い。

■就職時の情報源・サービス（単一回答）



その他回答：

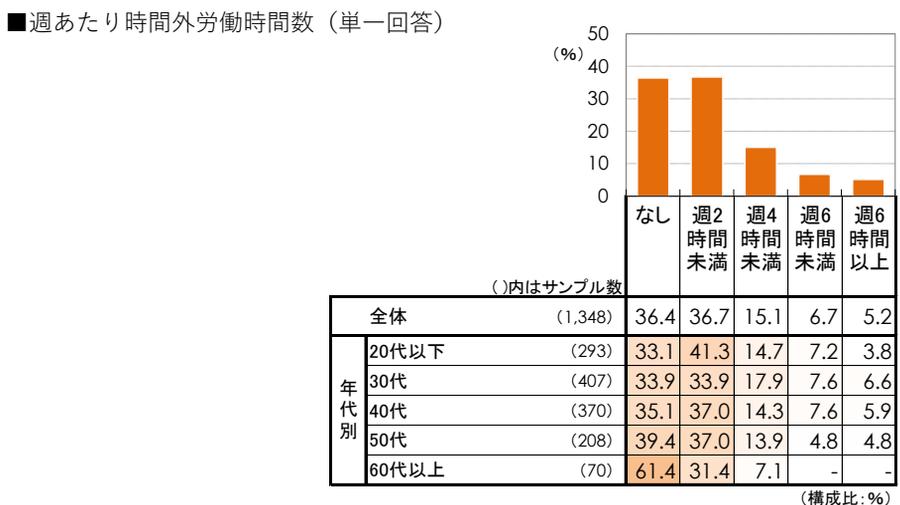
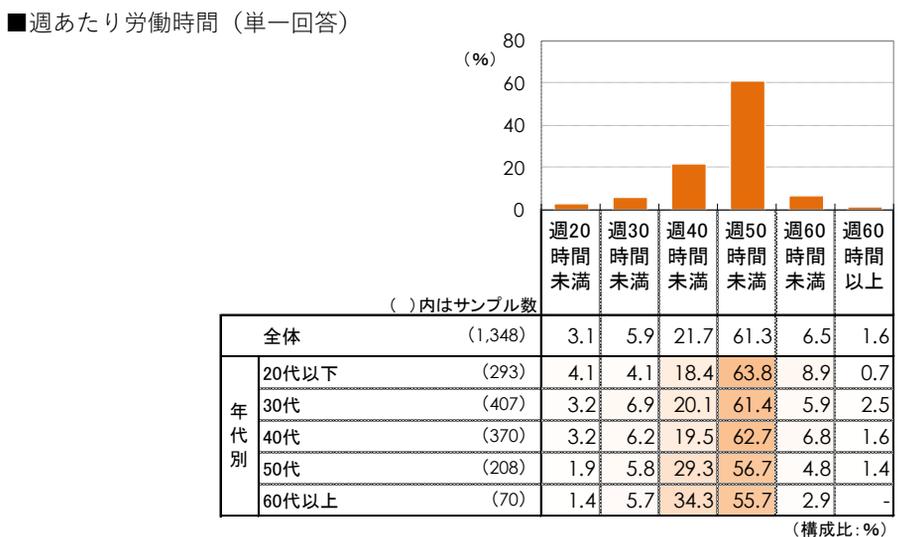
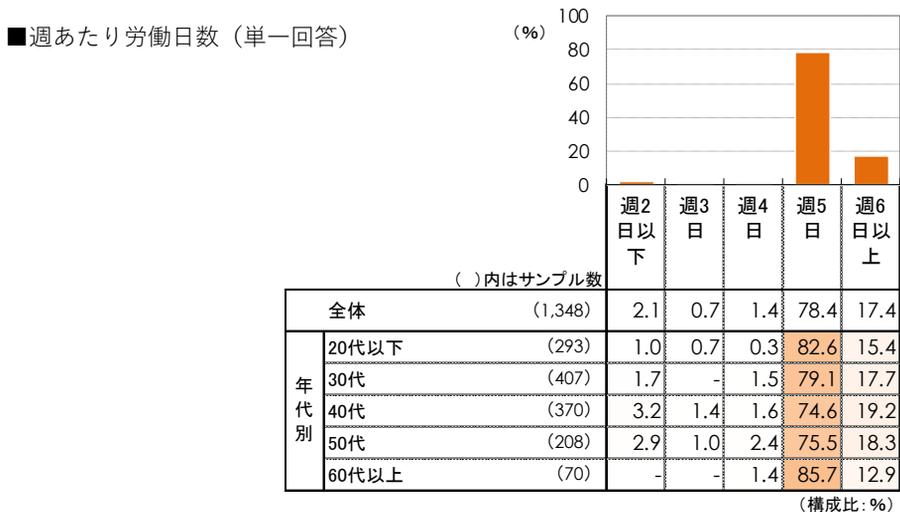
- ・ 公務員採用試験
- ・ 学校・養成校の求人など

■就職時の情報源・サービス利用理由（自由記入）

情報源・サービス	利用理由
知人からの紹介	実際に働いている人の情報が一番信頼できると思うから 信頼する方からの紹介だったので安心して転職できた 知人から、より詳しい園内情報を得ることができた 働いている人の意見を参考にしなかったから 施設内の雰囲気や人間関係、保育内容などは知ってる人から情報を得た方が分かりやすいので
施設へ直接応募	実習をした園で、そのまま就職希望をした 施設見学を機に入職。 パート勤務していた公立保育所が民営化されたタイミングで採用してもらった
ハローワーク	聞きにくいことも第三者が間に入り聞いてもらえる 給付金を活用しながら、就職を探したかったから。 資格はあったが、経験がなかったために採用条件を詳しく知るために相談窓口として選んだ 求人数が豊富 就職先の情報を丁寧に伝えてもらい、安心して就職活動ができた。
民間の求人情報誌・求人情報サイト等	ハローワークにない求人情報もあるから 条件が合うところをインターネットで検索したら出てきたから。 手軽に調べられるから 手に入りやすく、隙間時間で探すのに便利 コンビニでももらえるから
保育士・保育所総合支援センター	求人している保育施設が網羅的に見れる一覧表があった。就職先にセンター職員の方から細かい確認をしてもらえた。 求人案内が定期的に送付され、対応も丁寧だったので。 支援センターの保育園体験ツアーに参加してから、色々情報を提供してくれたから。 県外から来てどこの園がいいか分からなかったから
人材紹介会社	沖縄についてがなかった 自分で探すより良い条件が見つかりそうだから

(4) 労働日数・労働時間

労働日数は「週5日」が78%で最も多く、30代～50代において「週6日以上」の人も多い。労働時間は「週50時間未満」が6割以上で最も多く、50～60代において「週40時間未満」の人も多い。時間外労働時間は「なし」「週2時間未満」がそれぞれ36%前後と多く、30代で「週4時間未満」の人も多い。

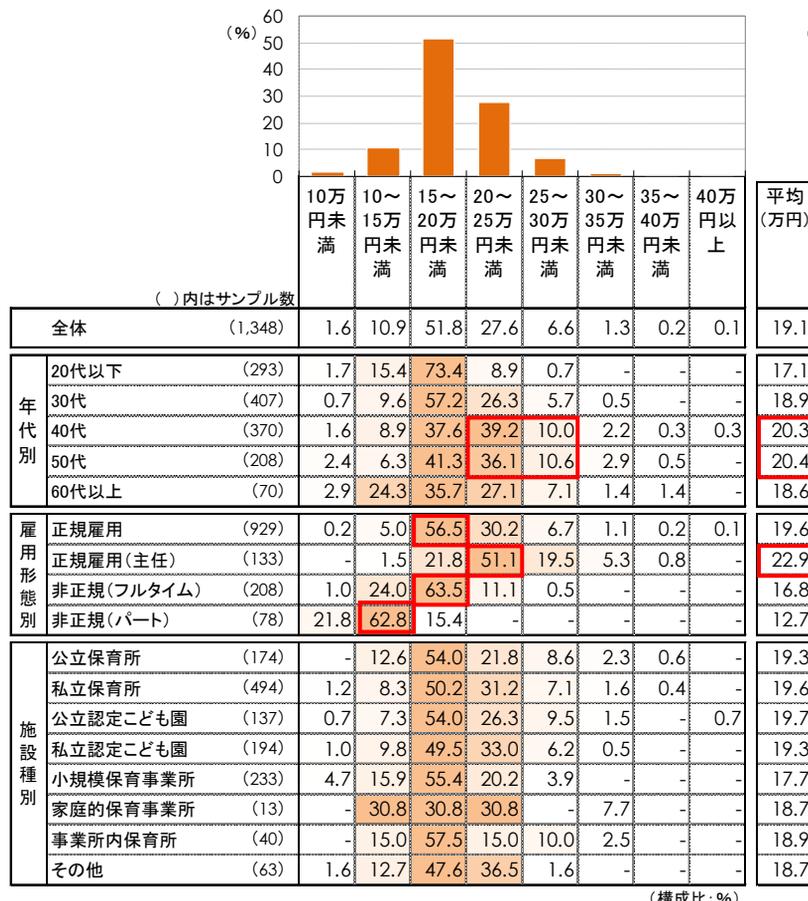


(5) 給与

1ヶ月あたりの給与は「15～20万円未満」が半数を超え最も多い。40～50代において他年代より高く、雇用形態では「正規（主任）」「正規」「非正規（フルタイム）」「非正規（パートタイム）」の順に高い。正規（主任以外）と非正規（フルタイム）の場合「15～20万円未満」がボリュームゾーン、非正規（パートタイム）の場合「10～15万円」がボリュームゾーンとなっている。

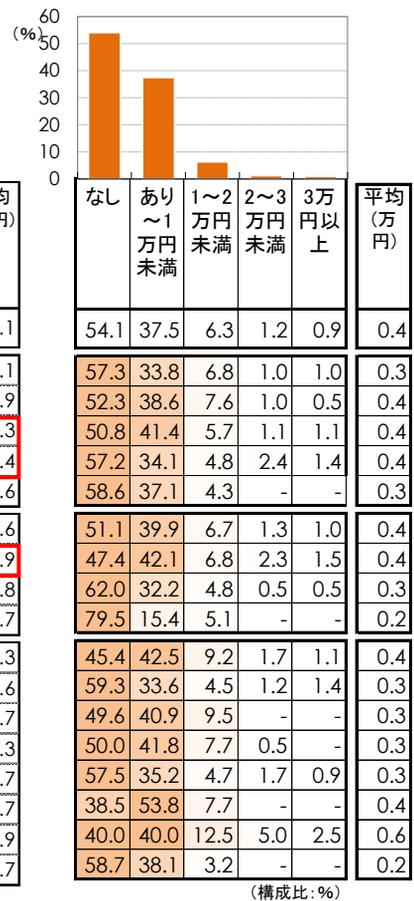
超過労働給与額は、「なし」が5割以上を占めている。

■1ヶ月あたり給与額（単一回答）



※平均は、各階級の中央値を与えて算出。10万円未満は10万円、40万円以上は40万円を代入した。

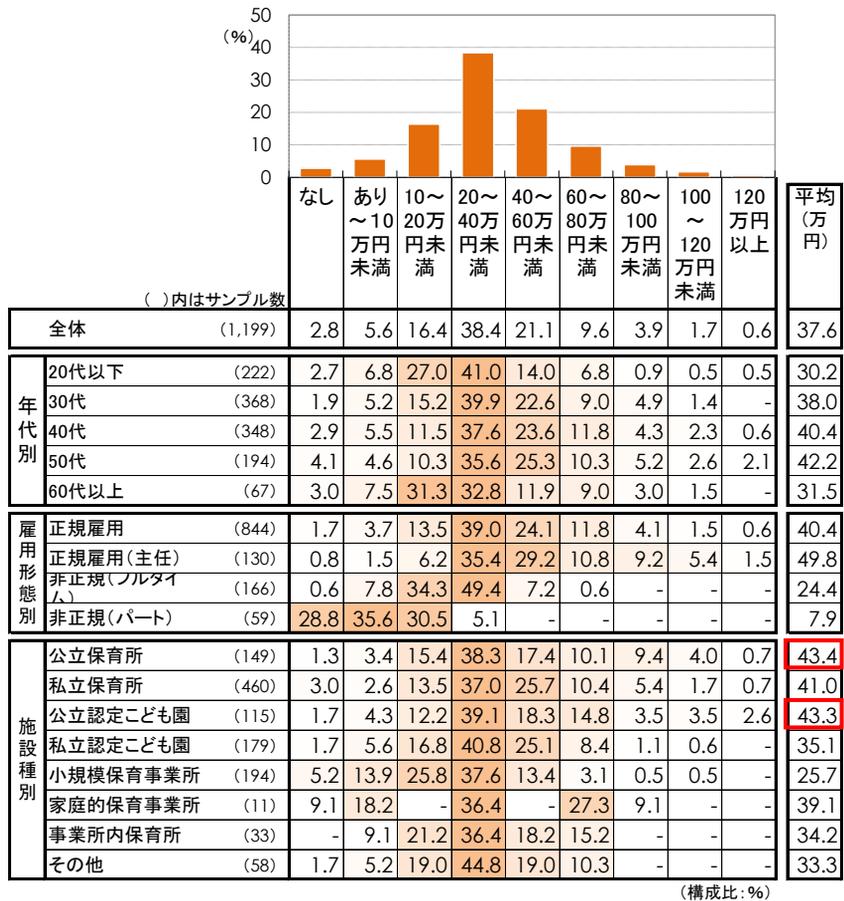
■1ヶ月あたり超過労働給与額（単一回答）



※平均は、各階級の中央値を与えて算出。「6万円以上」は6万円を代入した。

年間の賞与は「20～40万円未満」が38%で最も多い。施設種別にみると、公立の施設において賞与等が高くなっている。

■1年間の賞与等特別給与額【勤続年数1年以上】（単一回答）

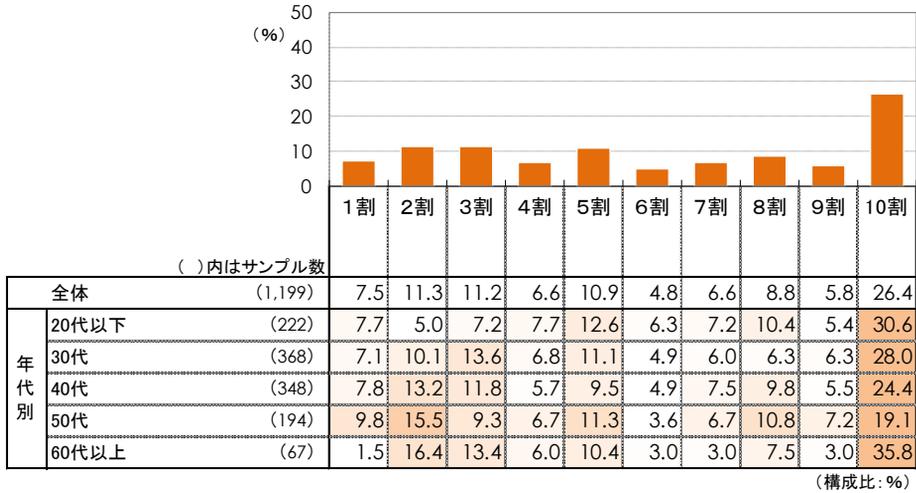


※平均は、各階級の中央値を与えて算出。120万円以上は120万円を代入した。

(6) 有給休暇取得率

有給休暇は「10割」取得できているという人が3割弱を占め最も多い。50代において、他年代と比べるとやや取れていないという人が多い。

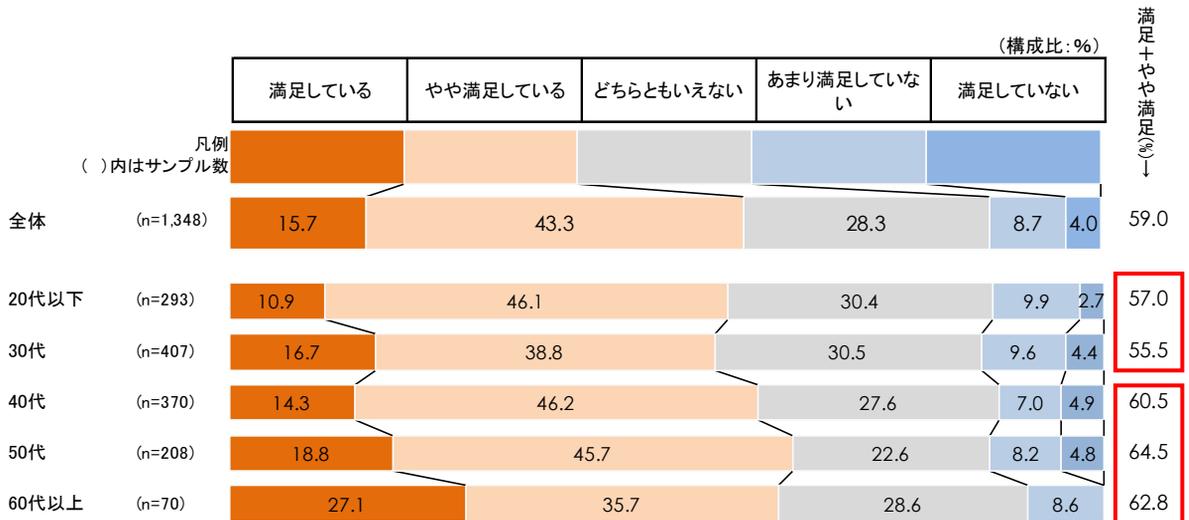
■有給休暇取得率【勤続年数1年以上】（単一回答）



(7) 現職の満足度

保育士としての仕事に対する満足度をたずねたところ、満足度（「満足している」＋「やや満足している」）は59%と高い。年代別では、30代以下の方が40代以上に比べて満足度がやや低い。

■現職の満足度（単一回答）

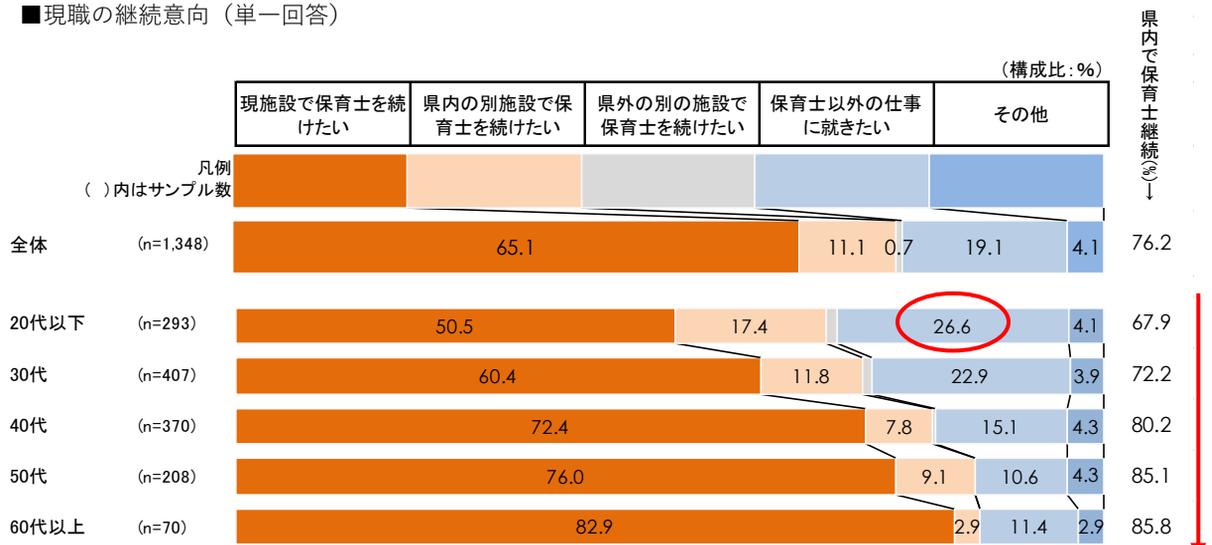


(8) 現職の継続意向

保育士の仕事の継続意向をたずねたところ、県内で保育士を続けたい（「現施設で保育士を続けたい」＋「県内の別施設で保育士を続けたい」）は全体で76%と高い。年代が上がるにつれて、その割合は高まる傾向がある。

「保育士以外の仕事に就きたい」の回答割合は若年層ほど高く、20代以下においては3割弱が当てはまっている。

■現職の継続意向（単一回答）



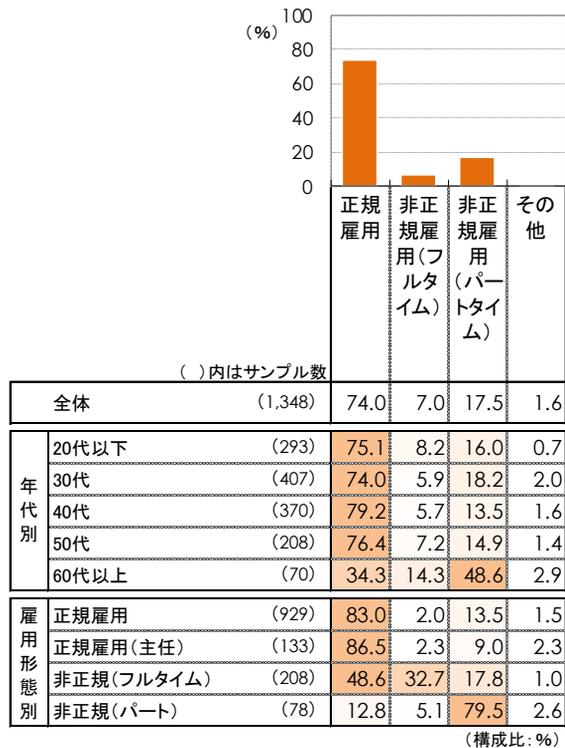
(9) 今後希望する雇用形態

今後希望する雇用形態は、「正規雇用」が7割以上で最も多い。60代以上は、「非正規雇用（パートタイム）」が49%で最も多い。

雇用形態別にみると、現在非正規（フルタイム）で働いている人は、正規雇用を希望する人が半数近くいる。

施設アンケートでは、採用数が多いのは非正規（フルタイム）であったが、働く人の側からすると、非正規（フルタイム）の希望は少なく、施設側とのギャップがある。

■今後希望する雇用形態（単一回答）

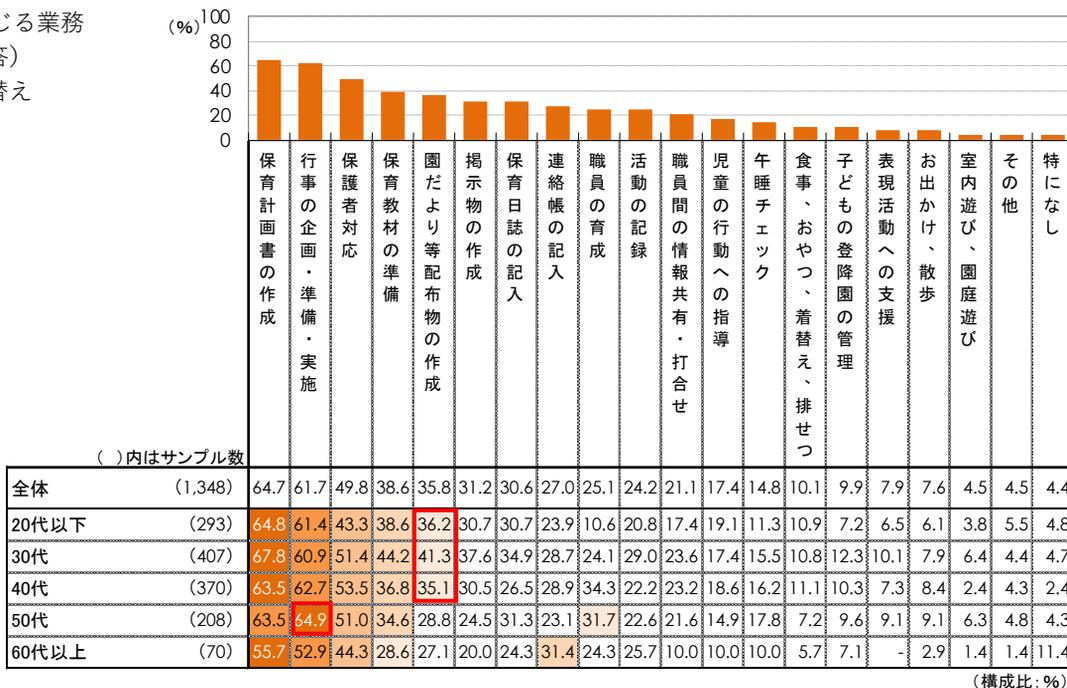


4. 保育士の業務について

(1) 負担に感じる業務

負担に感じる業務は、「保育計画書の作成」が65%で最も高く、「行事の企画・準備・実施」、「保護者対応」と続く。年代別に比較すると、「行事の企画・準備・実施」は50代が最も高く、「園だより等配布物の作成」は20代以下・30代・40代が他世代に比べて高い。

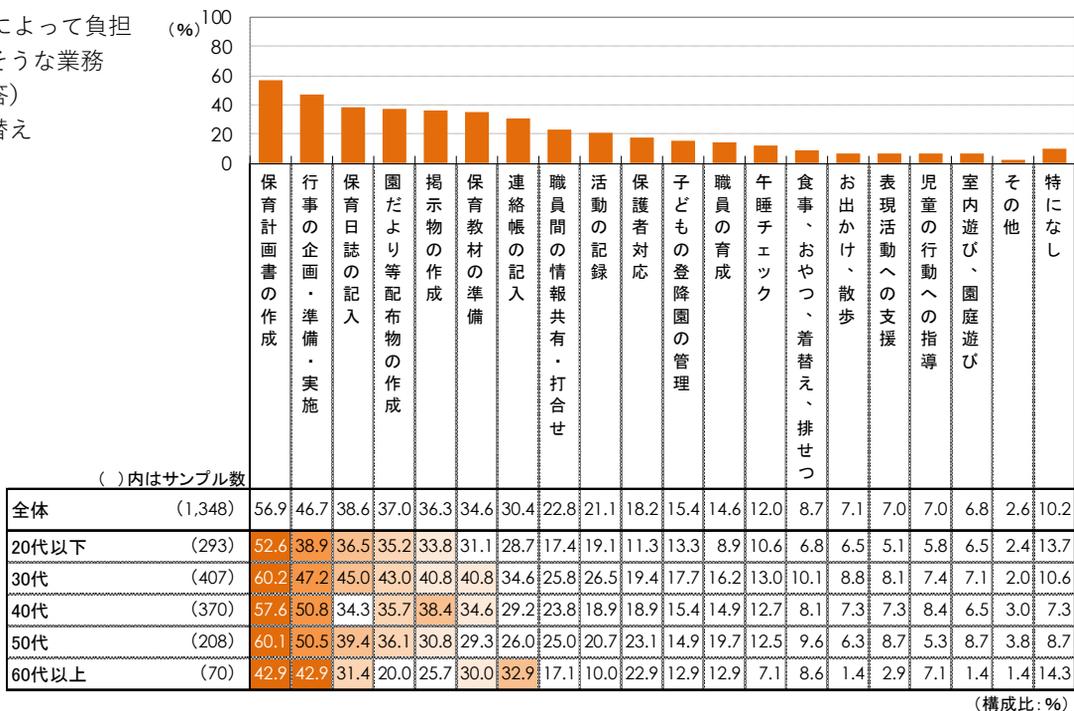
■負担に感じる業務
(複数回答)
※並べ替え



(2) 園の工夫によって負担を軽減できそうな業務

負担の軽減が可能と感じる業務としても「保育計画書の作成」が57%で最も高い。その他「保育日誌の記入」や「園だより等配布物の作成」など事務作業が上位に並び、「行事の企画・準備・実施」も高い。

■園の工夫によって負担軽減できそうな業務
(複数回答)
※並べ替え

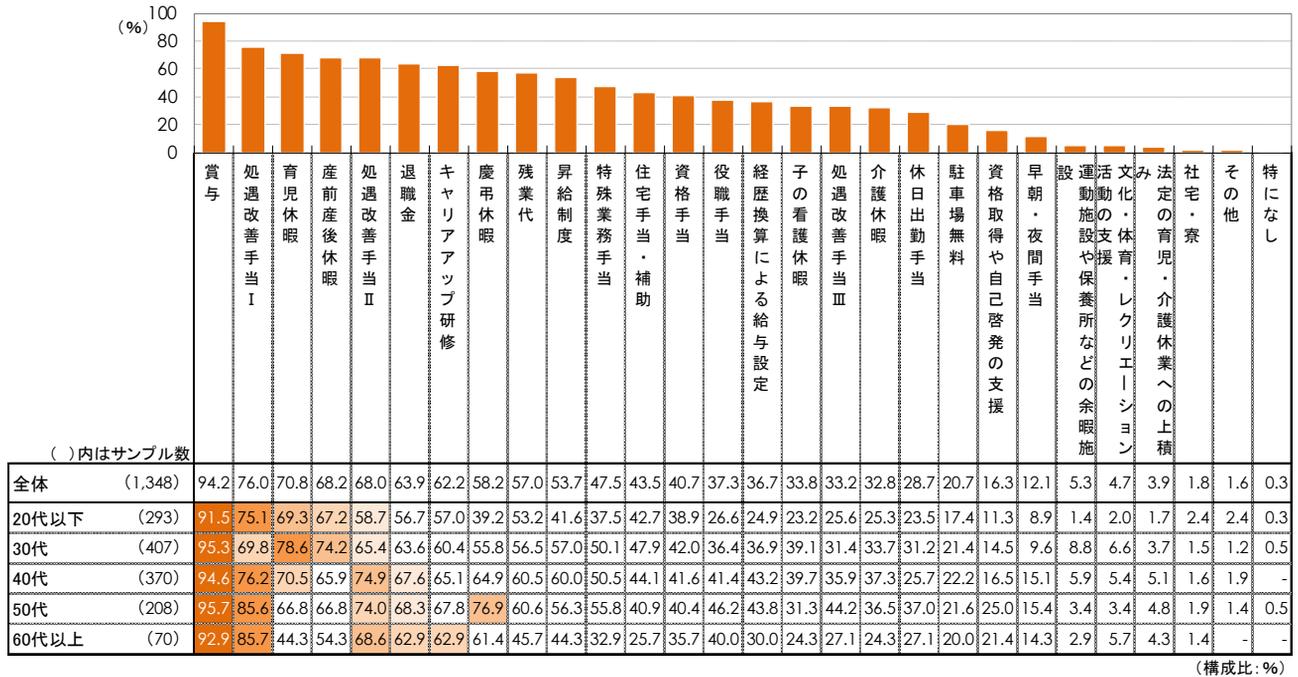


5. 働きやすい環境づくりに向けた取組み

(1) 制度や手当の整備・利用状況

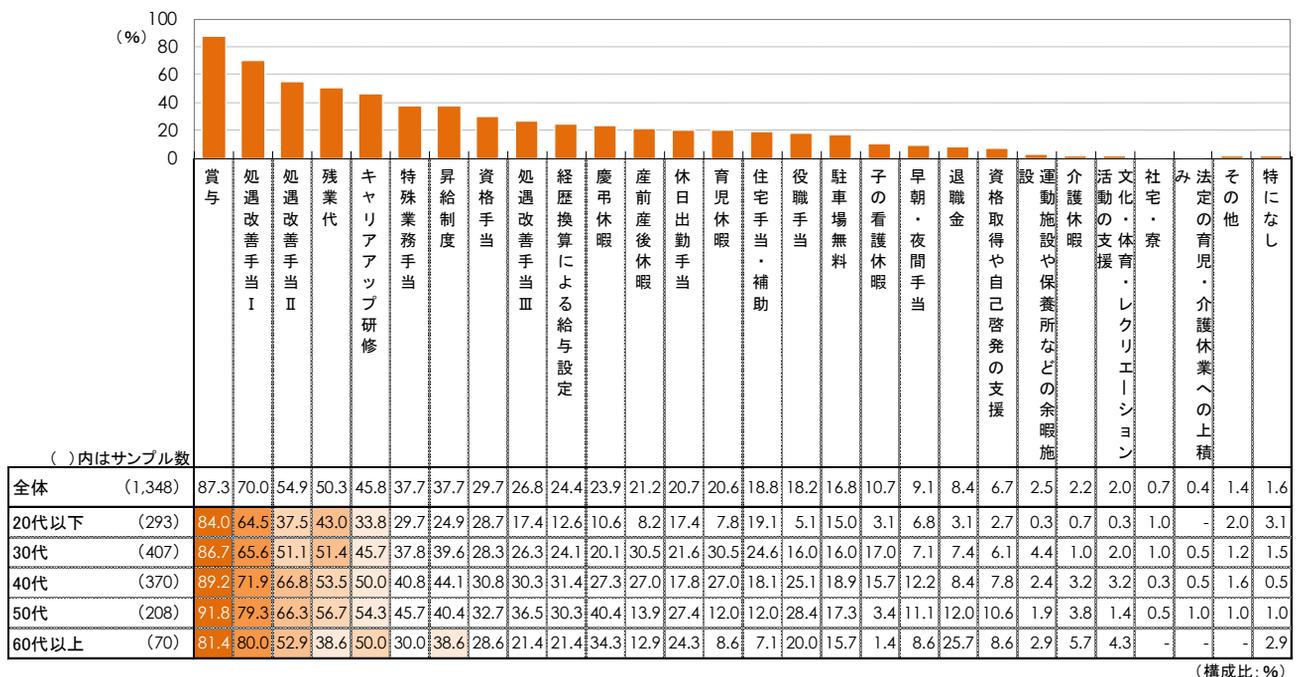
整備されている手当・制度・福利厚生は、「賞与」が94%で最も高く、「処遇改善手当Ⅰ」、「育児休暇」と続く。

■整備されている手当・制度・福利厚生（複数回答） ※並べ替え



利用したことがある手当・制度・福利厚生は、「賞与」が87%で最も高く、「処遇改善手当Ⅰ」、「処遇改善手当Ⅱ」と続く。

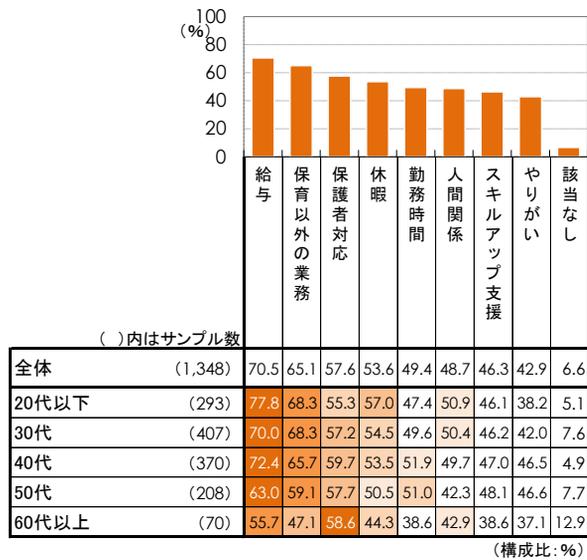
■利用したことがある手当・制度・福利厚生（複数回答） ※並べ替え



(2) 改善の必要性に対する意識

改善の必要性が高いこととして、「給与」が71%で最も高く、「保育以外の業務」、「保護者対応」と続く。特に20代以下において給与面での改善が必要と考える人が多い。

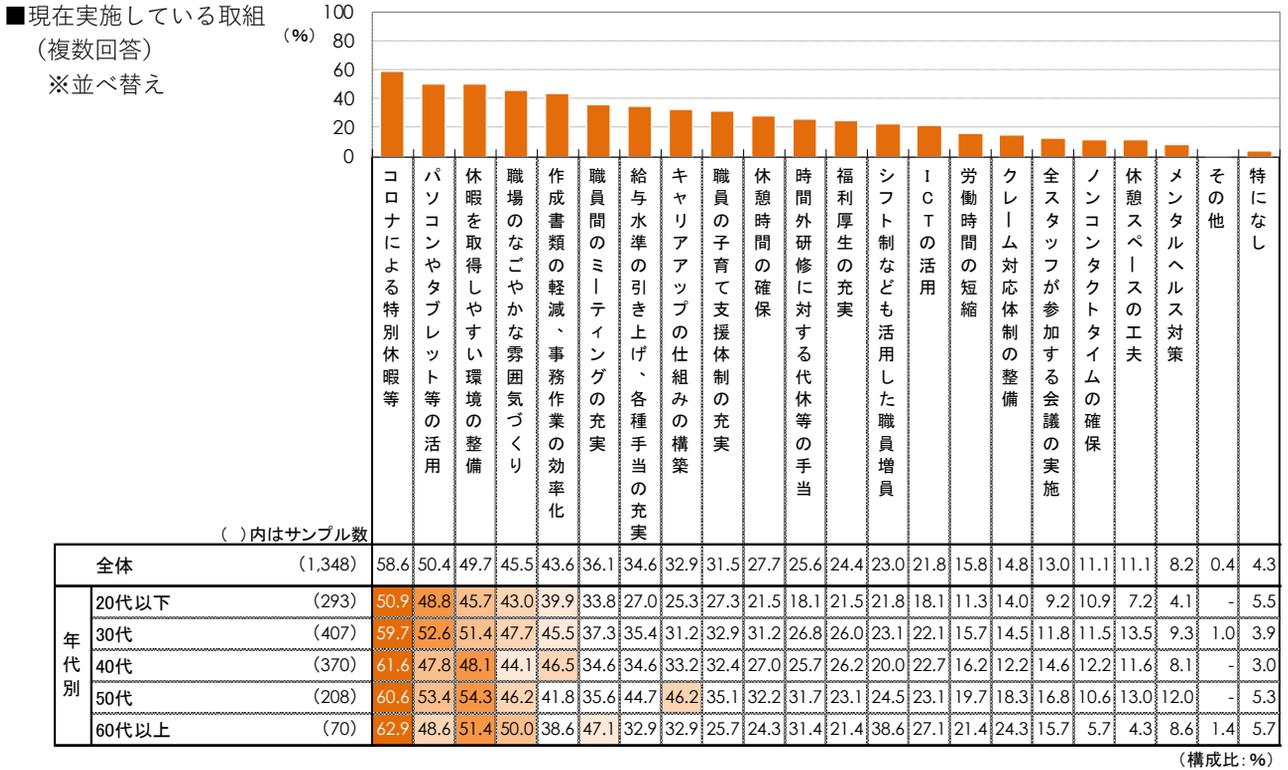
■改善必要性（それぞれの項目について5段階で聴取 「高い」 + 「やや高い」の割合を表示）



(3) 現在の取組状況と今後希望する取組

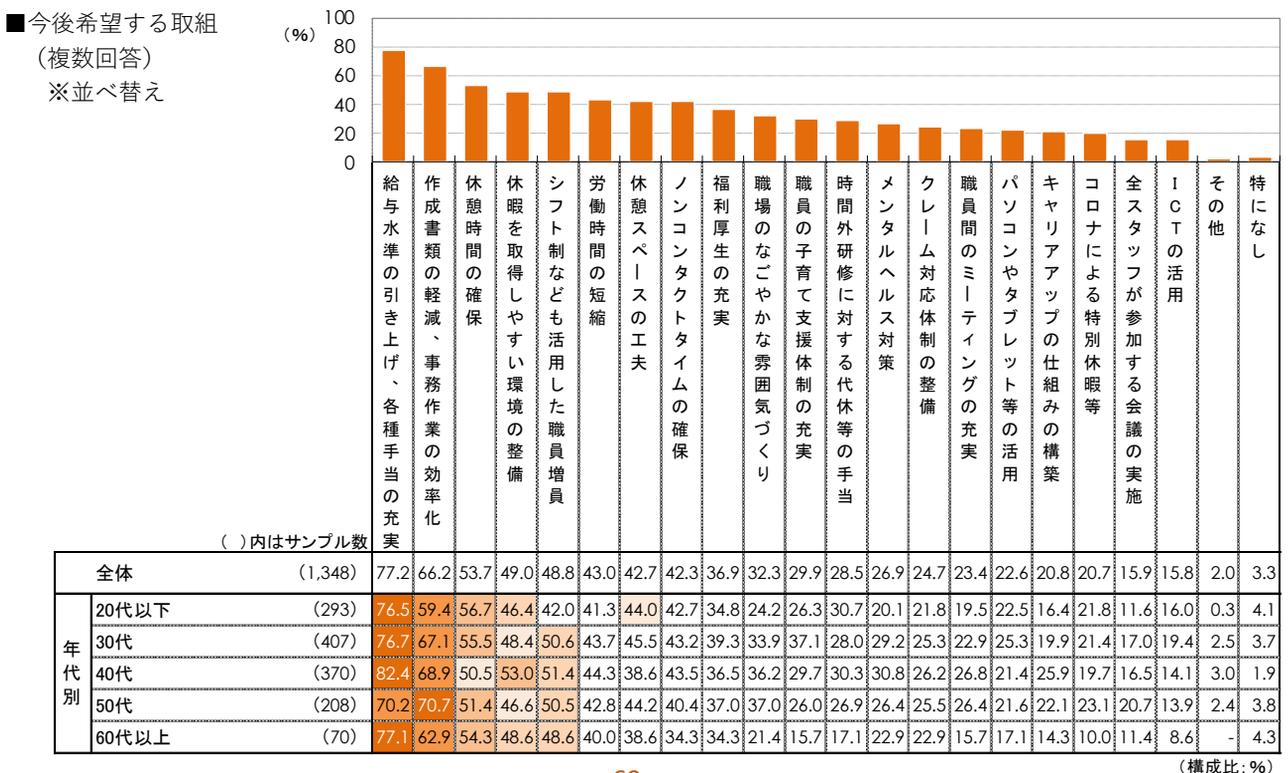
ア 現在取組んでいること

現在実施している取組として、「コロナによる特別休暇等」が59%で最も高く、「パソコンやタブレット等の活用」、「休暇を取得しやすい環境の整備」と続く。



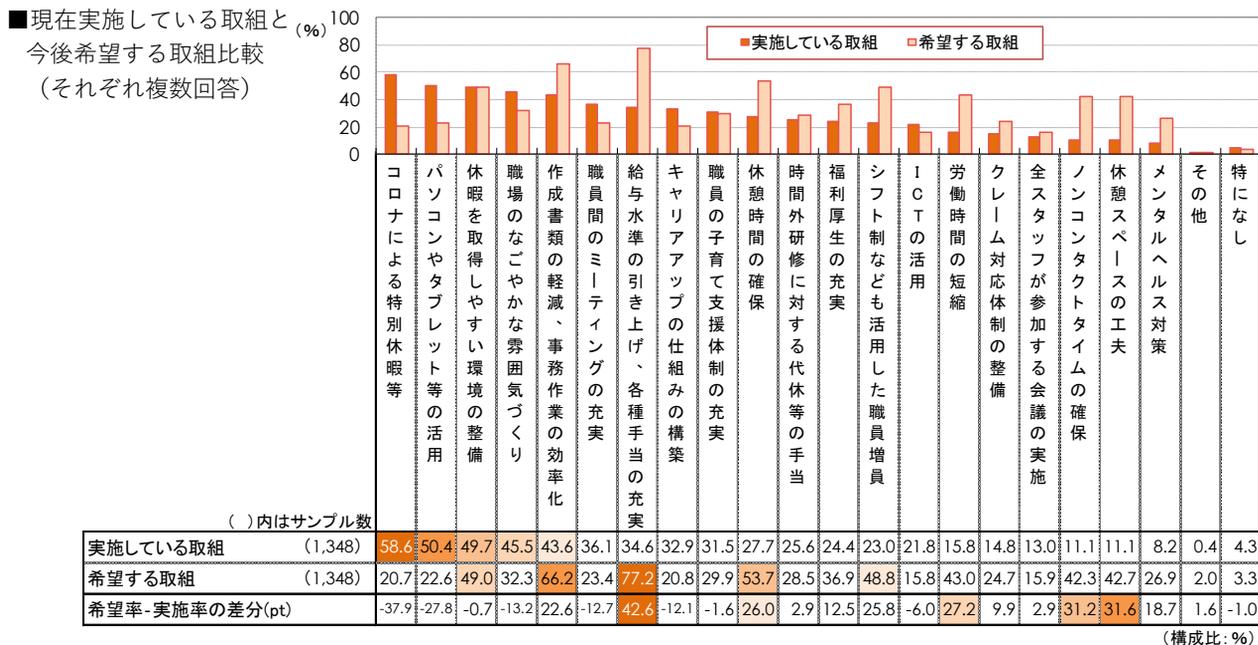
イ 今後取組んで欲しいこと

今後希望する取組としては、「給与水準の引き上げ、各種手当の充実」が77%で最も高く、「作成書類の軽減、事務作業の効率化」、「休憩時間の確保」と続く。



ウ 現在取組んでいることと今後取組んで欲しいこと

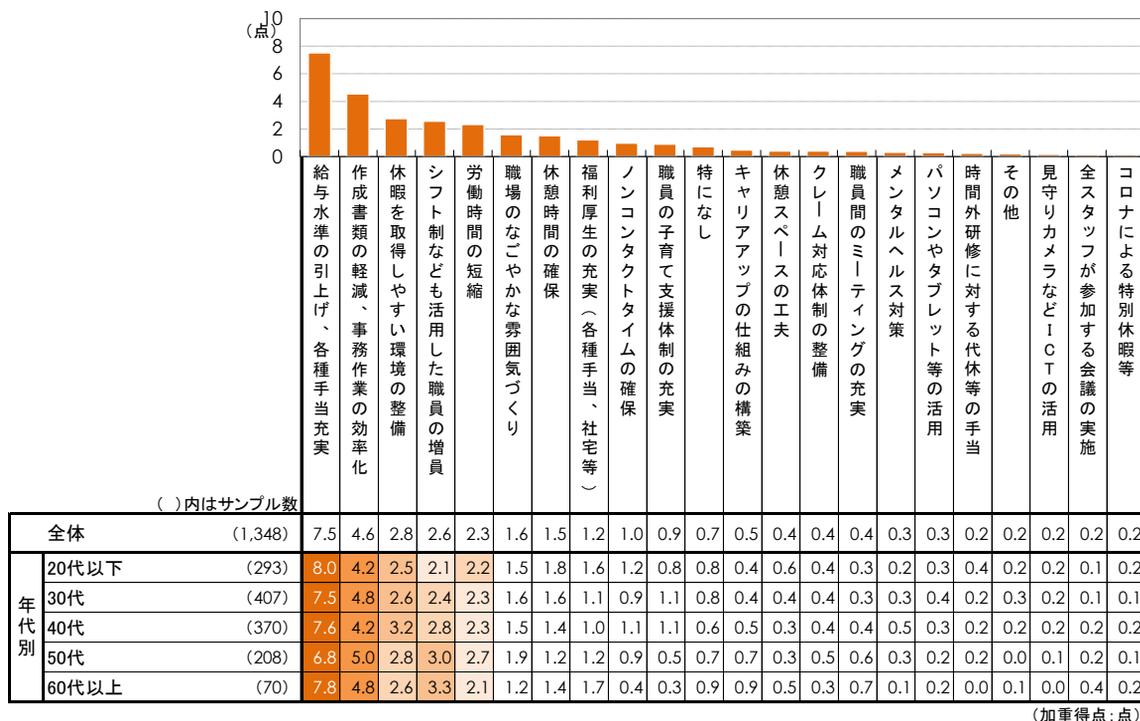
現在取組んでいることと今後取組みたいことを比較すると、希望率は高いが現在実施率が低いのは、「給与水準の引き上げ、各種手当の充実」、「休憩スペースの工夫」、「ノンコンタクトタイムの確保」、「労働時間の短縮」、「休憩時間の確保」であった。



(4) 優先度の高い取組

優先度の高い取組を1位から5位まで選んでもらい、加重得点化したところ、最も優先度が高いのは「給与水準の引き上げ、各種手当の充実」、次いで「作成書類の軽減」「休暇を取得しやすい環境の整備」の順に高い。

■優先度の高い取組 (加重平均) 1位:10点 2位:8点 3位:6点 4位:4点 5位:2点 として算出



(5) 保育士に好評な取組（自由記入）

●休暇に関する取組	102件	23%
・ 年休はかなり取得しやすくなった。		
・ 私の職場は人間関係も良く、休みが取りやすい環境です。定刻通りに帰宅も出来ます。		
・ 休み希望の充実化		
・ 子どもが体調を崩した時に、休みが取得しやすいので、子持ち家族は有り難いです。		
・ シフト休は職員の希望日に設定。希望した日に休みがとれるため、忙しくても頑張ろうという気持ちになる。		
・ リフレッシュ休暇(1日)を利用して、土日や指定休を含めて、連休を取れるような取り組み		
・ リフレッシュ休暇 (3日連続休取得可)		
・ リフレッシュ休暇、バースデー休暇		
・ 育児と仕事の両立の職員が多いので、休みが取れやすいように配慮。年休消化も調整して取得出来るよう配慮		
・ 家族看護休暇、夏休み		
・ 完全 週休二日制		
・ 希望休暇を全職員に与えている事は、仕事のやりがいと効率アップにつながっている。		
・ 休みの日数が増えた		
・ 休暇の取り方の平等化		
・ 急な休みでもみんなフォローし合える休みやすい環境		
・ 急に職員が休む状態でも、周りのフォローの連携が整っている為、休む側は安心出来ている		
・ 勤務している園では、休暇を取得したい日に確実に休暇が取得できる。週に二日は、必ず休暇が取得できる勤務体制が整っており、働きやすいと思う。		
・ 子どもが少ないときは有給対応してくれる。		
・ 子どもの体調不良での休み、呼び出しがあった場合には、残る職員で保育体制を協力し、休ませたり、帰ってもらったりする体制ができています。		
・ 子育てや家族（親を含む）の体調不良や行事参加などの際に、休暇を取りやすくしてもらっている。		
・ 取り組みはないが、3年目になり休みが週に2日あることにより、心に余裕ができるようになった		
・ 誰でもどのクラスに入れるようにしているので、安心して休みがもらえる。		
・ 誕生日休(特別休)遠慮なく休める日が一日あるだけでモチベーションが変わりました。通常有給の取得の調整が難しいため。		
・ 誕生日休暇		
・ 土曜保育を姉妹園で合同保育をおこない、職員の土曜休みが各週になった。		
・ 年休取得率の向上を意識して、全職員で連携をとって交代で年休を取れるような体制作りをみんなで意識するようにし、時間休なども取れるようにしていくことで、前年度より年休取得率が上がったことは良かったです		
・ 有給休暇の取得率が高い		
●業務改善、見える化に関する取組	88件	20%
・ 残業をしていないか、主幹の先生による業務内容の把握やアドバイス		
・ 業務や行事を担当制にした		
・ 書類時間の確保		
・ お便り帳を週一でない日を作り、月末は月案作成の日として、連絡帳なしと保護者に了承を得ている		
・ 子どもをみる事を中心に掲示物や事務的な仕事を必要最小限にしている。		
・ それぞれの役割を書面化		
・ ドキュメンテーションを作成し、ミーティング時に報告することで、担当でないクラスの様子も分かりやすくなってきた。		
・ 園児の登園が少ない土曜日には、おたより帳なしで、事務整理の時間や製作の準備等を時間交代で行なっている。		
・ 園独自の本から毎月のクラス目標、個人目標をし、振り返る。		
・ 危険箇所改善に対する問題点の改善		
・ 記録の簡素化、職員自身がワクワクするような記録に変えた。		
・ 休憩時間の確保や書類作成時間の確保		
・ 休憩時間の導入、保育日誌週案作成記入のスリム化簡素化		
・ 業務時間内で書類を作成する時間を1日2人ずつ組まれている。		
・ 月のクラス装飾などは使いまわしても良い(毎回新しいものを作ることが必須ではない)		
・ 月案、個別指導案などの作成時間を交代でもらえている。		
・ 月一の職員研修、学生さんとの関わり、特別休暇制度、スイミングを取り入れるなど		
・ 今まで働いてきた保育園の中で今の保育園は働き方改善されている。仕事量を減らすことで子供達との関わりが変わると思う		
・ 残業、持ち帰りの仕事を禁止しています。どうしても残業をする場合は園長許可を得てする事になっています。なので職場に		
・ いる間に効率良く仕事をするために皆頑張っています。		
・ 仕事の見える化、業務の仕組み作り		
・ 事務作業の時間をシフト上で確保する		
・ 担任だけではなく、全職員がみんな関わる保育ができていますと思う		

<ul style="list-style-type: none"> 発行物の見直し、制作の見直し、一大イベントを1年に1回(運動会、発表会)で交互に行うことで保育士は、もちろん子どもに達自身にも負担減になる。 役割、業務分担を明確にした取り組みがなされてから円滑な組織づくり出来始めている。 		
●ICTに関する取組	64件	14%
<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した登降園の把握、情報共有。 ICT化が進むことで、書類作成が簡単になりつつあるのでそれは好評かもしれない。保護者とも連絡がつきやすくなった ICT化した登降園や勤務管理 ICT化した事で、書類の負担が減った。保護者にも写真で様子を伝えられたり、必要な情報をすぐに伝える事ができる。 ITC化は保護者様から喜ばれている LINEでの出欠連絡、写真、動画送信等は便利になったが、同時に確認に要する時間が増えたり、お便りの新鮮さが無くなってきている。日々の情報としてどこまで伝えるか、判断が難しくなっている。 お便り帳からパソコンや携帯アプリが好評！！ お便り帳や記録がアプリ内で出来るようになったこと。手書きよりもスムーズに進められます キッズビューというサイトを取り入れていること。これで日誌、月案、発達チェック等、色々なことが出来てとても短縮になっています。 クラス日より・ホームページ・アルバムを廃止し、ハイチーズを活用して仕事の効率化ができ、心に余裕が持てるように コドモン導入により、指導案作成に要する時間が短縮された。 コドモン利用で保護者連絡 コドモン導入出来ておたより帳の時間短縮になった タブレットを使用した保護者への連絡など、すべて手書きだったこれまでと比べると負担感は減ったと感じる タブレットを使用することで時間短縮になった パソコンやタブレット、スマホを利用し、登降園の時間や登園人数、欠席の理由などを管理できるようになったことで、人数確認の手間が減り、職員の手が空いたことで子どもたちの対応に当たることができる。全クラスの出席人数等もすぐに分かり便利。保護者との連絡帳のやりとりもアプリを使って行えるので、クラスで同じ内容を送信したい時はコピーして貼り付けができるので便利である。写真を載せることで子どもの様子も伝わりやすい。 登降園システムを使い、お便り記入や手紙配布をペーパーレス化し、配信で周知できるようにし業務の簡素化を計っている 去年からタブレットを利用し、保護者への連絡やお知らせが出来るものへ移行しつつあり、手紙配布不足がなくなり確認がしやすく時間をとらないのが利点だと感じる。今年度から月案等も取り入れ書類の簡素化予定 登園、降園のタブレット打刻 年間保育計画書や月案などの書類をパソコンで作成することにすることで、昨年のもとの比べながら必要な修正をするだけですむようになった。 手書きの連絡帳からタブレットになり子どもと接する時間も少し増えた。一人2～3分程度であるが、進歩である。 		
●人間関係・コミュニケーションに関する取組	59件	13%
<ul style="list-style-type: none"> 職員間で子どもの様子についてよく話合っている。上司が職員をよく労ってくれている。 お互いに声掛けし合うことで、連帯感を持てるようにする。 お昼の休憩の取り方を、相談して行なっている。また、みんなで助け合う職員間の雰囲気がとても良い。 チューターによる情報共有 なごやかな雰囲気のある職場です ミーティングや職員間の関わりが、職場の雰囲気が上がる相乗効果をもたらしていると思います。また、保育内容のすり合わせは、かなり行います。 リーダー会議で情報を常に共有 以前は、園内研修の進行、記録を主任がやっていたが保育士同士がペアを組んで行う事でお互いに親しくなる事ができた 各種会議の短縮化。あらかじめ、会議の内容を配布し考えをまとめて無駄の無いようにする努力。 休憩中での保育士間の座談会 今の園は人間関係がすごく良いです。職員間で気を使わずいれるので、保育にもいい影響が出ていると思います。 週1のミーティングで各クラスの子どもの様子を報告し合う。職員全体が子どもの姿を把握できる。短い時間だがミーティングに参加しない職員も伝達し合う。コミュニケーション能力が高い。 小規模施設なので、全体で活動などを進めているため、一人で活動を考えたり、進めたりということがないのは、若い子から負担がないと声が上がった。 職員間でお互い言い合える仲(雰囲気作り)また、リーダー層から実施して他の職員間へ下ろしていく 職務会での研修やディスカッションを通して意見や考えを共有する取り組みがいいと思う。 人間関係が良く、和やかな雰囲気である。急な休みが出てもチームワークで対応することが出来ている。 		

●休憩に関する取組	57件	13%
・ 休憩時間の確保を園長をはじめ主幹の先生方も意識している。		
・ 1時間はしっかり休憩時間があり、子どもから少し離れる時間があるので、保育士の心にゆとりが少し待てると思う。		
・ 2時間休憩		
・ 30分だけでも交代で休憩時間がとれることで、リフレッシュが出来る		
・ チーム保育をする中で役割の流れの中に休憩時間を組み込み休憩時間の確保がしやすい		
・ 休憩時間の工夫による、保育の質の向上		
・ 休憩の時間を少しでも確保できたこと		
・ 休憩時間の確保とスペース作りに取り組み、ほとんどの職員がコミュニケーションとりやすくなっている		
・ 休憩時間を各クラスの人数や状況別で時間設定し、まんべんなく入れるようにしている。休憩を取る事で、気持ちのリセットや同じ時間帯で入る職員とのコミュニケーションを取ることが出来てきた。		
・ 休憩代替保育士により、保育室から出やすくなった		
・ 人員を確保し、休憩時間をしっかり取るようになり、休憩時間のコミュニケーションが取れクラスで協力して取り組む保育がますます見られるようになった。		
●職員体制に関する取組	31件	7%
・ 3年前から支援員の配属があり、保育室内外の清掃等も行なってもらっている		
・ クラス製作物をフリー保育士が事前準備		
・ シフト制にして、年休者がいる場合はヘルプでパートの職員が入ってくれる		
・ フリーや、補助の先生が、環境整備を手伝ってくれる。		
・ 一歳児クラスには担任以外のフリー保育者が手伝いに入っている。保育士一人当たりの園児人数の負担を減らすと子供の安全を守りやすい		
・ 交代で休憩に入る取り組みをしているので、職員にゆとりができたように感じる。また、パートやフリーの職員数が多いときには、現場もゆったり子どもたちに関わっていた		
・ 支援員の増員で保育士の時間が少しゆとりが出来たと思う		
・ 時々、平日の保育中、事務時間を与えてもらっている。(フリー職員が代わりにクラスに入る)		
・ 早番と遅番にパートを雇い、園児が多い時間帯に保育士がフルで対応できるようにする。		
・ 短時間保育士が、各クラスへのサポートに入ってくれて、とても助かっています。一人担任も安心して働けます		
・ 保育士補助が時間に入って来て食事後の片付けなど助かっています。		
・ 保育補助の職員を雇い、雑務などを保育士の代わりにする		
●給与・手当・待遇・制度に関する取組	28件	6%
・ 処遇改善手当や諸手当がつくようになり処遇はかなり良くなった。		
・ 傷病手当がある。給与面が良い。		
・ 給与があがることで、みんなの労働に対しての気持ちが高まり、質の向上にも繋がっていると思う。		
・ 給与に関しては以前に比べて、優遇してもらっている。		
・ 住宅手当での充実、駐車場代無料		
・ 宿舍借り上げ制度の導入により、私生活の負担軽減は、生活水準をあげ、保育の質の向上につながっていると思う		
・ 早番、遅番勤務手当。自分の子ども他保育園に通ってる為、早、遅番勤務ができない為、シフト加算をしてもらえてるため遠慮なく仕事が出来ている。		
・ 子育て中の保育士は、早目に勤務時間を切り上げる事、子供の在園人数に合わせている。		
・ 小さい子どもがいる職員は時短や固定シフトで助かっています。		
●研修に関する取組	26件	6%
・ キャリアアップの構築により、そのグループ活動による教材への還元、又保育士スキル育成に貢献できている事で情報交換できて良い。		
・ キャリアアップや資格取得の奨励金		
・ キャリアアップ研修の推奨、研修費用を園が負担する		
・ 園内研修年に4.5回組まれている		
・ 研修がYouTubeで受けられるようになり、多くの職員が学べるようになっていて良い。勤務時間内に受けられることもあるが、時間外になってしまうこともあるので、時間内にうけられるよう工夫している。		
・ 第二土曜日の午後研修で職員間で共通理解できることが良い		
・ 福祉会の研修で、保育成果を発表。お互いを鼓舞し合える事で、自己肯定感もあがり、モチベーションにもつながる		
・ 保育カフェという研修を毎週金曜日のお昼時間に行っており、内容はクラスの保育内容を発表し、それに参加者が一言ずつ感想を言い合うものです。		

●時間に関する取組	22件	5%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 30分早く勤務を上がれる事！とってもありがたいです ・ 残業した分早く帰れたり勤務時間を変更してくれる。 ・ 勤務時間内で子どもの降園が早い場合には職員も早く帰れる。 ・ 行事前日などの超過時間の振替休がしっかり組まれることで、効率もよく気持ちよく仕事に取り組めるようになっている。 ・ 残業させないこと ・ 1時間の時短勤務 ・ 退勤時には、帰る。周りが「終わる時間だよ」と声をかけている ・ 超過勤務による振替の取得 		
●ノンコンタクトタイムに関する取組	19件	4%
<ul style="list-style-type: none"> ・ ノンコンタクトTimeを取り入れる事で振り返り計画をクラス間で共有できている。 ・ 子どもから離れてリフレッシュ時間にもなり気持ちを切り替えむかえられる時間になっている。 ・ ノンコンタクトタイムが1時間は必ずある ・ ノンコンタクトタイムの実施。交代で業務を分担して行っている為、事務仕事やりやすい ・ ノンコンタクトタイムの実施に取り組み始めた。職員数が毎日確保できないので、全職員が実施できていないが、交代で取り組めるようになってきた。以前よりも事務作業の時間の確保はできるようになった。 ・ ノンコンタクトタイムや保育時間中に代わりの保育者が入って、書類をする時間を設ける。 ・ 担任同士が話し合えるノンコンタクトタイム 		
●コロナ対応の取組	8件	2%
<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの通う学校や園、また、家族にコロナ感染者が出た場合は、特別休暇にしている、年休にはしていない。 ・ コロナに対しての特別休暇があり、活用出来ていてよい。 ・ コロナ禍の特別休暇 		
●面談の取組	5件	1%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回の自己評価と園長との面談 ・ 園長や主任が率先して現場に入り、普段から職員とコミュニケーションを取るようにし、小さなことでも相談しやすい環境を作った。 ・ 園長や主任など上司との面談 ・ 月1の職員面談 ・ 園長先生が職員の相談に乗ってくれる。 		
●保護者対応に関する取組	3件	1%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者からのクレームがある際にはすぐさま対応する。 ・ 保護者クレーム対応で、すぐに情報を共有するところ。 ・ 保護者との連絡ツールの活用 		
●メンタルに関する取組	1件	0%
<ul style="list-style-type: none"> ・ メンタルサポートの取り入れ 		
●その他の取組	17件	4%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 0歳児から4歳児までの5年間、持ち上がることができ、今までにない幸福感、充実感、達成感をあげることができた。 ・ 週毎の保育者自身の目標 ・ たくさん園外保育やお散歩に行くことができる。 ・ 行政からの事務員の配置により残業や年休等の取り方や書き方を指導してもらい、改善されている ・ 今年度から、事務員として本庁から職員が配置されている。給与や休暇取得など、今までわからなかったことや利用できなかったことを知り、活用できるようになった。 ・ 子供達が、運動会やお遊戯会に向けて一生懸命に頑張って達成間や成長が見られる。 		